

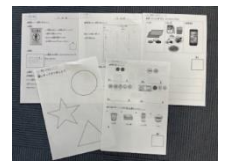
令和7年度 研究の取組みのまとめ (4年計画の2年目)

「みんなでわくわく～授業実践～」

(1) 子どもの実態をおさえる

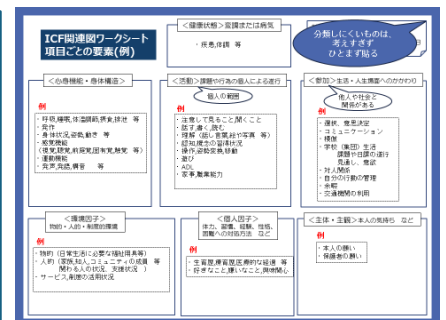
① アセスメント計画(*別冊)に基づいて実施し、的確な実態把握につなげる。

アセスメント計画に基づいて実施し、実態把握につなげた。MEPA-RとCLISP-dd(トップダウン)については、昨年度整えたアセスメントをとりやすくするための記録表や実施のための用具を活用し、アセスメントを実施した。記録表や用具等あることで、担当する教員がスムーズにアセスメントを進めることができた。



② 「ICF 関連図」を指導グループで作成し、子どもの実態を総合的、多面的に捉える。

指導グループで対象の幼児児童生徒について、ICF 関連図を作成し、実態把握、共通理解を図ることができた。ICF 関連図作成の前に、ICF の概要を確認したり、作成の流れ等を提示したりすることでスムーズな取り組みとなった。関連図の作成の過程から、子どもについてより深く考えたり、話し合ったりすることができ、子ども理解を深めることができたとの意見があった。また、ワークシートの項目ごとに具体的な例を示したプリントがあったことで「分類がしやすかった」との意見があった。

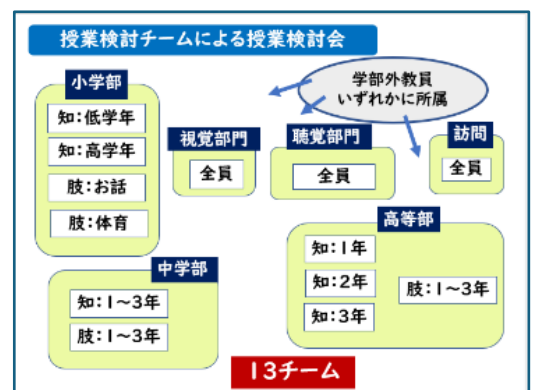


(2) 授業実践 【 実態—目標(指導内容・方法)—子どもの姿から振り返り 】

① 授業検討チームによる授業検討会を実施

・学部部門ごとに授業検討チームをグルーピングし、13チームで授業検討会(ベースミーティング、改善検討会)を行った。3クールを実施し、年間を通して37の授業検討会の実施となった。

・アンケートでは「進行役がいることで、充実した検討会になったか」の設問に「とてもそう思う」「そう思う」との回答は95%だった。進行役がいること、検討会進行の目安を提示していること等でスムーズな授業検討が行われている。また、進行役の8割が「授業者と一緒に授業をつくりあげた実感がある」と回答しており、昨年度よりも「実感がある」の回答率がアップしている。「進行役シート」があることで役割が明確になり、授業者をサポートした授業づくりと円滑な検討会の進行につながっている。日程の調整については、進行役と授業者を中心に、昨年度よりもスムーズに行われていた。

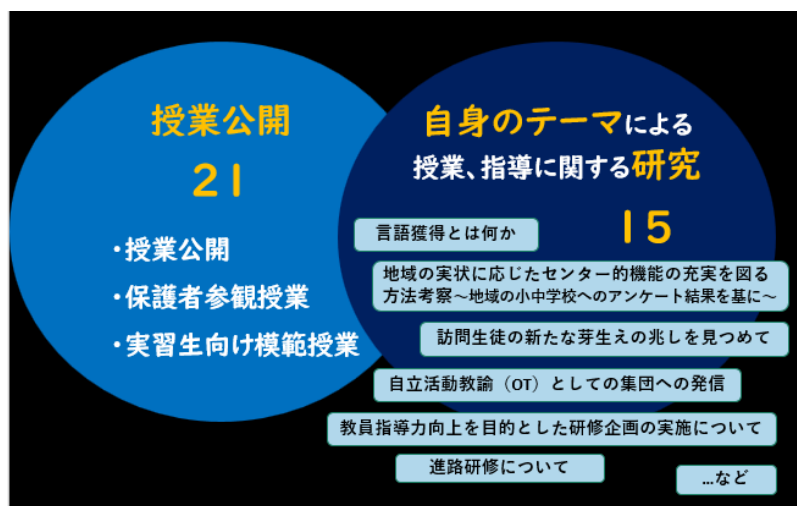


令和7年度 学部部門の研究テーマ

学部部門	研究テーマ	教科
小知 低学年	基礎感覚にアプローチした授業づくり	ことば・かず
小知 高学年		体育
小肢 お話チーム	適切な実態把握を行い、学習指導内容表をおさえた授業づくり	お話
小肢 体育チーム		体育
中学知	クラス・学年を超えた他者との関わり	
中学肢	他者とのコミュニケーションを意識した授業展開	
高知1	卒業後の生活を見据えた授業	
高知2	～子どもが主体的に参加できる授業～(1年生)	
高知3	～自立・社会参加を目指す授業～(2,3年生)	
高肢1・2・3	肢体部門における作業学習についての検討【作業】(各作業班におけるの動線や内容について)	
視覚	自立活動における主体的な学び	
聴覚 幼・小・中	幼児児童生徒の実態に即した個別最適な学び	
訪問	リラクゼーション ～五感を使って～	

・今年度から学部部門ごとにテーマを決めて授業検討会を行ない、授業改善を進めた。テーマがあることで視点が明確になり、授業改善や一貫性のある指導につながったという意見があった。日常生活の指導やベースとなる学習の視点が共有されたことで、授業検討会の対象授業だけでなく、他の授業や学習活動の改善にもつながっている。一方、学部部門によっては「テーマが広すぎて具体化しにくかった」や「テーマありきの授業設定や話し合いになってしまった場面があった」との意見があった。

② 実践の発信、共有、学び合い



・指導案や参観コメントをまとめたファイルは、いつでも閲覧できるようにしている。
・対象授業については、映像を保管し、視聴できるようにした。

- ・授業を公開し参観者からコメントを受けることで、自身の実践を見直すことができている。
- ・授業、指導に関する自由研究では、それぞれがテーマを決めて研究に取り組んだ。研究の内容については、さがちゅうゼミで発表したり、レポート等にまとめたものを共有したりすることで、お互いの学び合いとした。

次年度に向けて

実態をおさえるために活用しているアセスメント、MEPA-R、CLISP-dd(トップダウン編)については、昨年度、アセスメントをとりやすいよう記録表の作成や実施するための用具等をセットしたものを今年度活用した結果、「アセスメントがとりやすい」との意見があり、スムーズな取り組みにつながっている。次年度は、今年度の活用から改善点を整理し、さらに活用しやすくする。また、他のアセスメントについても整理し、検討していく。

授業検討チームによる授業検討会については、4年間取り組んできたが、『ベースミーティング』『改善検討会』ともに充実した取り組みになっている。チームで授業検討を行うことが効果的な授業づくりにつながり、教員の学び合いの場になっている。今年度は学部部門ごとにテーマに視点をあて取り組んできたが、「話し合うごとに指導支援が充実したものになっていると感じる」「意欲的に取り組む子どもたちの姿があった」との意見があり、子ども理解が深められ、授業改善につながっている。学部部門によってはテーマに難しさがあったとの意見もあったので、次年度については、学部部門ごとに設定したテーマを再度検討し、授業検討会を充実させ授業改善につなげていく。

(3) 授業を支える教材教具・指導法の工夫に取り組む

高根教材支援室では、考えを一緒に実現していく！

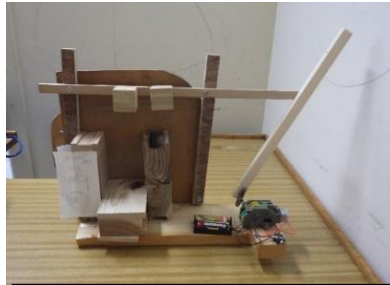
① 高根教材支援研究室の活用

スイッチ教材、電子黒板やchromebookで活用できる教材などを作成し、いろいろな場面で活用した。

スイッチ教材



【作業(カフェ班)で活用】
スイッチを押すと…
ポットが傾き、
お湯を注ぐ



【作業(リサイクル班)で活用】
スイッチを押すと…
缶のプルタブを取る



【係り活動で活用】
スイッチを押すと…
CDの再生ボタンを押す



スイッチを押すと…
扇風機がまわる
風鈴を鳴らしたよ♪



スイッチを押すと…
ミシンが動く

共通教材の
作成と貸出



型はめ教材
色や形にカスタマイズできる



輪めき教材
長さや形がいろいろある

電子黒板等で活用できる教材



画面を指や手でタッチしたり、
スイッチを押したりすると
リアルな音の花火があがる



色のマッチング



タッチすると音になる



しりとりゲーム

② 「教材教具・指導法の工夫シート」「ICT 活用の工夫シート」の作成、共有

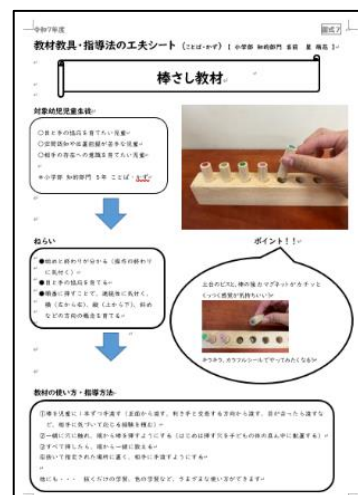
◎教材教具展示(7月23日～8月27日)

・今年も多くの自作教材を展示することができた。それぞれが授業で使っている教材を展示し、お互い見合うことで、自分の授業でも活用できそうな教材を見つけたり、教材づくりのヒントやアイデアを得たりすることができた。



◎「教材教具・指導法の工夫シート」「ICT 活用の工夫シート」(職員室前の廊下に掲示)

・教材や指導の工夫をシートにまとめることで、自身の実践を振り返ることができ、また、お互いの授業や教材づくりの参考になっている。



・今まで作成されたシートは、教科・領域ごとにファイリングし保管、共有できるようにし、授業や教材づくりの参考としている。



次年度に向けて

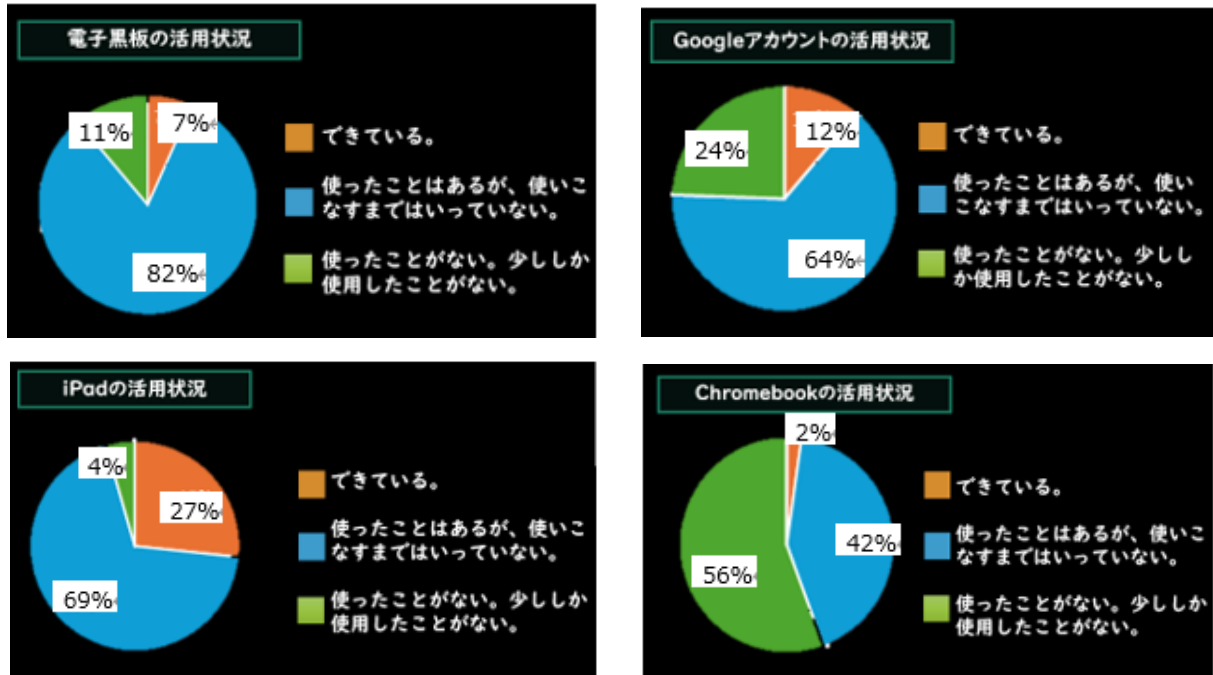
高根教材支援研究室の活用では、「『こんな教材を作りたい』に対して、作成の手伝いや有効なアドバイスなどをもらえて助かる」との意見があり、教材製作支援につながっている。今年度はスイッチ教材、電子黒板やChromebookで活用できる教材が充実し、いろいろな場面で活用された。高根教材支援研究室の相談窓口がわかりにくいとの声もあったので、依頼方法を整理、周知し、活用をさらに促していく。

「教材教具・指導法の工夫シート」等の掲示や、教材教具の展示については、お互いの授業や教材づくりの参考となっており、次年度も継続して授業を支える教材教具・指導法の工夫に取り組んでいきたい。

(4) ICT 活用による学びの拡充 ～利用の日常化、アイデアを広げよう～

① 端末の活用実践を進める

端末活用状況、電子黒板の活用状況のアンケートを行ったところ活用状況について、以下のとおりだった。
(令和8年1月)

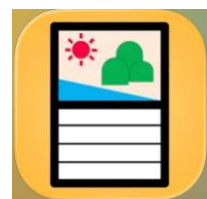


「使いこなすまでにはっていない」と回答する教員の割合が大きいが、「昨年度と比べると全体的な活用は進んでいると感じる」とのチーム員の意見もある。以前から配備、活用されている iPad については「活用ができてい」との回答の割合が比較的高くなっている。昨年度設置された電子黒板については Google アカウント、chromebook と合わせて、今後活用を進めていきたい。

② 端末活用や電子黒板活用の実践事例など、情報の共有

●ICT 活用研修(8月25日)

○肢体部門小学部、中学部に在籍する児童生徒を対象に、学習アプリ「えにっき」を活用した実践の報告を行った。小学部の児童は、活用により、自分の気持ちを伝えたり他者を意識したりする場面が増え、中学部の生徒は、タイピング入力の学習を積むことができたり、読み上げ機能で自分の文章を客観視することで他者に伝える文章表現の向上につながったりしたとの報告があった。



○中学部肢体部門の音楽の授業における実践。電子黒板での Google スライドの活用の報告があった。また Google スライドの利点や一人一台端末への活用について、Google Classroom を使った電子黒板の活用やデータ共有についての情報の共有を行った。



●ICT 活用研修(9月22日)

Canva の使い方等の情報共有やテンプレートを使ったポスター等の作成演習を行った。ICT 支援員のサポートもあり、Canva 活用のマニュアルができた。

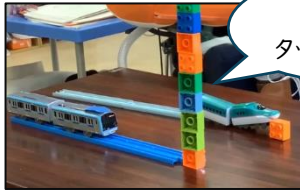


●実践報告会(校内1月22日、校外2月2日)

端末や電子黒板の活用実践に関する映像を提示しながら報告を行った。

＜小学部 肢体部門 さんすう＞

iPad アプリ「MaBeee コントロール」のスイッチと、「MaBeee」を使い、プラレールでブロックを倒すなどの量に関わる活動を行った。量の違いに気づき、量の違いを捉えることにつながった。



iPad を
タッチすると…



プラレールの
電車が動いて
ブロックを倒す

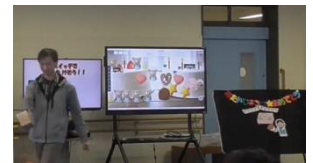
＜中学部 作業学習＞

カフェ班の活動でスイッチ教材を活用した。ポットのお湯を入れる担当が、スイッチを押してお湯を注ぎ入れた。ポットが傾き、お湯が注がれる様子をよく見ていた。みんなで協力してコーヒを淹れることができた。



＜小学部 お誕生日会＞

小学部のお誕生日会で活用した自作アプリを電子黒板に提示して活用した。デジタルケーキに児童がトッピングし、児童が画面をタッチしたり、スイッチを押したりするとろうそくの火が消えて、誕生日の児童の好きなキャラクターがでてくるなどの仕かけになっている。児童が楽しみながら活動していた。



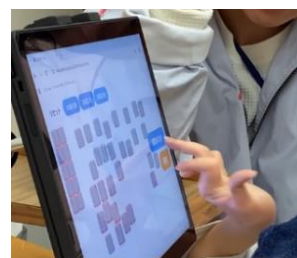
＜中学部 肢体部門 自立活動＞

花火や魚取りゲームなどの自作アプリの活用。腕や手を伸ばして画面を触ると、花火があがったり、魚を捕まえたりすることができる。生徒が楽しみながら腕や手を動かしたり、花火や魚をよく見たりしていた。



＜小学部 肢体部門 さんすう＞

10のまとまりを視覚化する自作アプリを活用して、大きな数を数えたり、繰り上がりのある計算をしたりする学習を行った様子を報告した。



chromebook の画面のブロックをタップしていくと、10ごとにまとまる設定になっていて、10のまとまりを意識したり、繰り上がりの計算につながりたりした。

●i-chro 隊の端末活用の実践

端末活用の実践
i-chro 隊のメンバーの実践

「量の違い」をとらえよう

10をつくらう

電子黒板で車ゲーム

iPadでことばかずの取組み

すくすくプラスでもの名前とひらがな

Canvaで夏休みの出来事のライド

すくすくプラスでせんなぞり

Keynoteの活用

Googleスライドの活用

...など

R7 アイクロ隊の報告について

1. 成果物の名前 所属 全組
2. iPad (Chromebook) の活用について、〇をつけてください。
3. どのような実践で活用し、どのような実践を促しているか、この実践がどのようなことにつながったかを教えてください。
4. イラストや写真、仕草など

・i-chro 隊メンバーが定期的に(今年度は6回)集まり、お互いの実践の報告や取り組みの相談を行った。

・i-chro 隊メンバーが iPad や chromebook、電子黒板の活用を進め、実践を報告としてまとめ、廊下に掲示することで共有を行った。

③ ICT 活用相談システムの活用

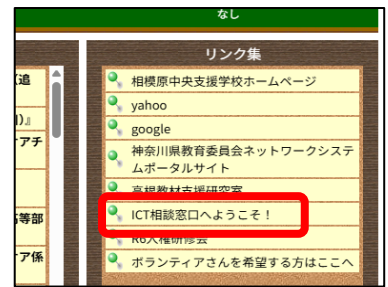
- ICT サポーターのメンバーが個別の困りごとや相談に応じた。
打合せ掲示板に「ICT 相談窓口」を設置しているが、サポーターメンバーへ直接相談に来ることも多く、気軽に相談できる雰囲気ができている。

- ICT 関係のさまざまな研修・学習会の実施

<Canva の研修> 9月 22 日

<夏の学習会> 7月 28日～8月 1日

少人数対応で「Google アカウントのログイン方法」「Canva の活用」「生成 AI を活用した授業づくり」の内容で学習会を実施した。基本的な内容から実践的な内容まで、体験しながら活用力を高めながら、授業における効果的な ICT 活用について考える機会となった。



次年度に向けて

「研修から学び、以前よりスムーズに使用できるようになった」「具体的な使い方を説明してもらえた」等の意見から、教員の活用への意識が高められる研修が実施でき活用につながっている。活用を目的とするのではなく、子どものニーズに応じた実践を進めるためにさらに教員の力量を高めていきたい。次年度についてもニーズに合わせた研修、校内外の実践共有や情報共有を行いながら、活用のアイデアを広げ、実践を進めていく。部門ごとに活用内容等をまとめるなど、効果的な実践共有、情報共有とし、一人ひとりのニーズに応じた端末活用の実践を進め、学びの拡充につなげたい。

「みんなが深まる・広がる～研修・自己研鑽～」

*授業改善研修会 授業力向上や子ども理解に関わる研修会を実施した。

- ① 水泳指導研修会…5月 (学部部門ごと日程を設定)
各学部部門で必要な内容で実施した。
(水泳学習進度表の確認、実技研修、指導法の資料や映像の視聴による研修 など)
- ② 「ICF関連図作成」…7月 17日
各学部部門で指導グループを中心にグループを作り、対象の子どもの ICF 関連図を作成した。
- ③ 講演会…8月 25日
発達の土台となる感覚について知り、感覚統合の視点から子ども理解を深めることを学び、今後の教育活動にいかすことを目的とし講演会を実施した。
<講演会> 講師：横浜市北部地域療育センター 作業療法士 松本 政悦 氏
テーマ：「子どもの行動の意味や背景をとらえる～感覚統合の視点から～」
- ④ ICT 活用研修会…8月 25日
端末活用の実践の共有、体験を通して、端末活用についての理解を深め、一人ひとりのニーズに応じた端末活用の実践につなげることを目的とし、前半は実践報告を行い、後半は4つのブースに分かれ、ICT 機器の体験や相談を行った。

*他部門紹介研修…8月 26日 新転任者 & 希望者対象

訪問教育、視覚部門および聴覚部門の教育の概要や実践について学び、教員としての専門性の向上を図るとともに、校内の連携を深める一助とすることを目的に実施した。

*全体研究会 講演会…2月 3日

インリアルアプローチの視点からのコミュニケーション支援について学び、「子ども理解を土台とした授業改善」につなげ、指導・支援にいかすことを目的として講演会を実施した。

<講演会> 講師：東京都立八王子西特別支援学校 学校長 坂口 しおり 氏
テーマ：「発達的な視点からのコミュニケーション支援」

***さがちゅうゼミ（自主研修会）**

- 1 学期：「おはなしのおはなし～手の機能の発達をとらえて～」 講師：前田智恵子教諭（OT）
 「肢体不自由児・者への介助支援について～緊張とストレッチ～」 講師：森田千佳子教諭（PT）
 「肢体不自由児・者への介助支援について～みんなのストレッチ～」 講師：森田千佳子教諭（PT）
- 2 学期：「車いすメンテナンス～安全に乗るために～」 講師：森田千佳子教諭（PT）
 「絵手紙・消しゴムハンコ」 講師：近藤雅美教諭
- 3 学期：「スイングで遊ぼう！！」 講師：前田智恵子教諭（OT）
 「企業における教員の実務研修（報告）」 講師：古川棕子教諭
 「高等部家庭科の系統的な学習を目指した授業実践」 講師：名取瞳教諭
 「教員の ICT スキルの向上を通じた学びの拡充」 講師：北島亜由美教諭
 「みんなで作ろう木工班」 講師：斎藤大司教諭

***夏の公開研修会…7月26日** 保護者、地域の方々も参加され6講座開催した。

講座	講師
「視覚障害（弱視）について」	横浜市立盲特別支援学校 杉山節子教諭
「ろう教育とデフリンピック」	ルックスオティカジャパン株式会社 佐藤 湊 氏
「いろいろな用具を使った体づくり運動」	森田みゆき教諭、生亀宏晃教諭、三浦陽士朗教諭
「ぎんがボッチャ体験会」	神奈川県ボッチャ協会川崎様、他 石田真大教諭、佐々木瑠倭教諭
「この子どもな子、気になる子！！ ～読めない、書けない、座れない～」	前田智恵子教諭（OT）
「スイッチや ICT 機器でなんでもできるかも!？」	飯田大樹教諭

次年度に向けて

全体で行う授業改善研修会、講演会、希望者が参加する夏の公開研修会、さがちゅうゼミを実施し、子ども理解や授業力につながる内容で行うことができた。次年度においても子ども理解を深め、専門性の向上につながる研修を実施していく。学部部門のニーズに対応した研修や講演会となるよう学部部門と連携し進めていきたい。

「みんなをつなぐ～中央支援スタンダード～」

中央支援スタンダードの活用と充実 ～内容の確認・改訂・活用～

- 「中央支援スタンダード」について、学部ごとに内容の確認を行った。（5月8日）
- <スタンダード3>教室環境整備について、「視環境を整える」「姿勢を整える」の内容を加え、昨年度までの視機能研修で学んだ『子どもの見え方を理解することや視環境を整えることの大切さ』を常に全教員で意識していけるようにした。

次年度に向けて

次年度についても、子どもたちが戸惑うことなく学び続けることができる環境づくりのために、学校全体で指導のつながりを意識して取り組めるよう「中央支援スタンダード」を活用していく。年度始めに確認や掲示等を行い、環境づくりの大切さを意識し、整えていけるようにする。

The poster '教室内の環境整備' provides a comprehensive checklist for classroom preparation. It is divided into three main sections:

- 視環境を整える (Adjusting the visual environment):** Includes items like '視覚障害のある児童の視覚特性を考慮し、視覚環境を整える' (Consider visual characteristics of children with visual impairments and adjust the visual environment), '視覚環境を整える' (Adjusting the visual environment), and '姿勢を整える' (Adjusting posture).
- 姿勢を整える (Adjusting posture):** Focuses on '視環境を整える' (Adjusting the visual environment) and '姿勢を整える' (Adjusting posture).
- 人的環境 (Human environment):** Focuses on '人的環境' (Human environment).

 The poster also includes a 'Check point' section with 7 numbered items and a '子ども理解の【守備範囲】' (Children's understanding of the 'defensive range') section.